

活用効果調査表は、**新技術活用計画書、実施報告書、活用効果調査表**（発注者用、施工者用）で構成されており、新技術活用前に**計画書**、活用後に**実施報告書、活用効果調査表**を作成してください。

新技術活用後（A VR）

- 実施報告書
- 活用効果調査表

実施報告書

実施報告書

[新技術活用計画表](#) [実験報告書](#) [汎用効果調査表（施工者用）](#) [汎用効果調査表（施工者用）](#)

☒ **記入完了** ※下記項目の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。

施工概要	内容	コメント欄（ 確認者のコメント（※） 、 申請者のコメント（※） ）
	工事の施工内容を記入 例) ○○川に架かる橋梁の下部工事 △△工　１号 □□工　２基	
読字チェック	凡例： チェック対象文字 , 修正候補	
読字・脱字チェックの結果をここに表示します		
対象数量	全角127文字以内。 ※新技術を活用する数量を記入して下さい。	
	施工概要等	
読字チェック	凡例： チェック対象文字 , 修正候補	
読字・脱字チェックの結果をここに表示します		
新技術使用箇所 全角127文字以内。		
例) ふとんかごの場合、「施工済盛土範囲」、「○○川右岸盛土箇所」等		
施工（活用）概要資料 ※新技術の活用内容を把握できる図面や写真等を添付。（活用後の情報で構いません。）		
ファイルをドラッグ＆ドロップしてください。または ファイルを選択 選択されていません		
※ファイルは50MBまでのものとしてください。		
現場施工条件 各全角1000文字以内。		
●現場条件 例) 周辺部分の材質は、2～1.3程度。川床面に一部砕石があり、先 ●周辺状況（病院、学校、鉄道の有無等） 例) 食料部より川床面(L=6.0m付近)に電力会社の修路あり ●自然環境（騒音、振動、水災等） 例) 今回施工した改良部では、地下水、湧水への影響はない。		

新技術活用計画書

新技術の施工期間や活用理由等
について記入してください。

新技術の対象数量等の施工概要
を記入してください。

従来技術と比較した、新技術の活用
の効果を評価し、記入してください。

※システム画面は、一部簡略化しています。

活用効果調査表

新技術活用評価表	高度化推進表	活用効果調査表（製造業用）	活用効果調査表（施工業用）
----------	--------	---------------	---------------

記入要領

- 全ての調査項目について調査を行って下さい。
ただし、記入者が評価に関係のない利用した調査項目があれば「当該技術に関連しない項目である」にチェックして下さい。その場合は、当該調査項目の評価は必要ありません。また、コメント欄にその理由を必ず記入して下さい。
- 調査項目毎に評価点をチェックして下さい（チェックの目安は下表の通り）。**

大幅に改善	改善	同等	悪化	大幅に悪化
1	2	3	4	5

【ポイント】

活用し始めた初期が、従来技術に対して「悪化する」と「同等」か「改善」かを判断して頂く。どの程度悪れているのか、どの程度改善しているのかと主観を記載していただくこと、チェックせず放置しないでください。

- 調査項目の追加が必要な場合はその他（自由記述）欄に記入して下さい。
- 調査項目毎に「優れていた点」（実っていた点）をチェックして下さい（複数チェックすることも可能です）。
チェックを入れた場合はその増減説明をコメント欄に記入して下さい。また、チェックを入らなかった場合についても、その理由をコメント欄に記入して下さい。
- コメント欄には、**効果調査の理由を必ず記入して下さい。**
また、当該技術を活用及び活用検討する上での**留意事項等**を記入して下さい。
記入内容は、効果調査の理由や評価の観点でチェックした内容と必ず整合を図って下さい。
必要に応じて定量的なコメントをお願いします。

☒ 記入完了 ※（活用効果調査表（施工業用））の記入が完了したら、チェックも入れて下さい。

会社名(所属) _____

記入者氏名 _____

連絡先 (TEL) _____

活用効果調査

コメント欄（建設者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

経済性

効果調査

従来技術より改善		同等	従来技術より悪化する	
○1	○2	○3	○4	○5

※ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- ☐ 機械設置・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 機械設置・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

コメントを入力してください

誤字チェック 凡例： 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

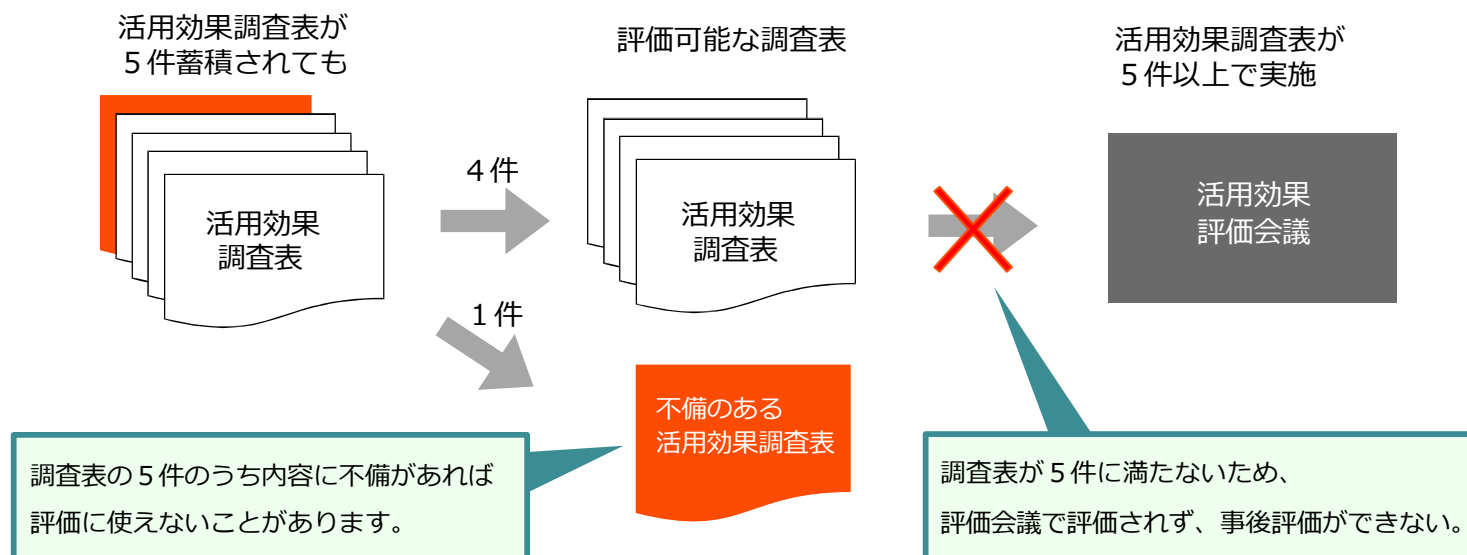
活用効果調査の重要性

活用効果調査表は、直轄工事等で活用された新技術の有用性を検証し評価することを目的とした、事後評価にかかせない重要な基礎資料です。厳正な評価をお願いします。

不備のない厳正な調査表の作成

調査表の内容について疑義があると、再確認する場合があります！

調査表の内容について疑義があると、事後評価の際〔数年後〕に問合せが来る場合があります。



NETISシステム操作について

1.NETISの原則義務化

- ・直轄工事においては、**原則1技術以上の新技術**を活用しなければならない。

2.ID、パスワードの申請

- ・活用効果調査表作成の**IDとパスワードは1工事毎**に申請が必要です。
紛失しないよう保管を！

3.新技術活用計画書、実施報告書および活用効果調査表の作成について

3-1.保存について

- ・**120分でタイムアウト**するため一時保存を行ってください。

3-2.計画書の作成について（活用前）

- ・**活用等の型**を忘れずに選択してください。
- ・計画書を作成し、「**記入完了**」に**☑して登録**してください。

3-3.「A」「VR」技術について（活用後）

- ・実施報告書を作成し「**記入完了**」に**☑**してください。
- ・すべての項目のコメントを記入してください。（**当該技術に関連しない場合も**）
- ・活用効果調査表を作成し「**記入完了**」に**☑して登録**してください。

3-4.「VE」技術について（活用後）

- ・**実施報告書、活用効果調査表の作成・登録は不要**です。

※活用効果調査表などは登録完了後は閲覧できないので、必要に応じて事前に保存してください。

オンライン活用効果調査表作成の実施フロー

調査者（施工者）

調査者（発注者）

九州技術事務所

① P26～
ID・パスワードの発行

ID・パスワード申請

1工事毎に申請する

ID・パスワード受領

通知
(自動メール)

通知
(自動メール)

ID・パスワード申請情報確認

ID・パスワード承認、発行

※ID・パスワードは、
発注者からでも申請できます。

【活用前】

② P28～
計画書

【発注者指定型】

計画書確認・登録

計画書「記入完了」に☑

計画書作成・一時保存

「活用等の型」を忘れずに選択

連絡
(口頭等)

通知
(自動メール)

登録

通知
(自動メール)
VEの場合

記入内容確認

【施工者選定型】

計画書作成・登録

「活用等の型」を忘れずに選択
計画書「記入完了」に☑

通知
(自動メール)

計画書確認

修正あり

修正なし

修正依頼

登録

通知
(自動メール)
VEの場合

記入内容確認

NETIS登録

【活用後】

③ P30～
活用調査表

④ P36～
実施報告書
(A・VRのみ)

実施報告書、
調査表（施工者用）
作成・登録

実施報告書「記入完了」に☑
調査表「記入完了」に☑

修正依頼受領

通知
(自動メール)

通知
(自動メール)

受注者記入内容確認

修正あり

修正なし

修正依頼

調査表（発注者用）
作成・登録

調査表「記入完了」に☑

修正依頼受領

通知
(自動メール)

通知
(自動メール)

NETIS登録

記入内容確認

修正あり

修正依頼

修正なし

【VEについて】
実施報告書、活用効果調査表の
作成・登録は不要です。

① ID/パスワードの申請方法 1

活用効果調査表等作成のID・パスワードは1工事毎に申請が必要です。

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索 | 登録申請/変更・更新/事前相談 | **活用効果調査表/活用計画書** | テーマ設定型の比較表 | マッチング | 維持管理技術ページ | 震災復旧・復興支援技術ページ | NETIS活用状況データベース | マニュアル/FAQ

新技術を探す

検索キーワード or or

▼キーワード検索条件を追加

工種 or or

▼工種検索条件を追加 工種検索条件: ☐ and ☐ or

有用な新技術の選択

☐ 推奨技術 ☐ 準推奨技術 ☐ 評価促進技術 ☐ 活用促進技術

旧実施要領での技術の位置付け

☐ 活用促進技術 (旧) ☐ 設計比較対象技術 ☐ 少実績優良技術

新技術に期待する効果で更に絞り込む

☐ 経済性の向上 ☐ 工程の短縮 ☐ 品質の向上 ☐ 安全性の向上

☐ 施工性の向上 ☐ 周辺環境への影響抑制

この条件で検索 ▼ 他の条件を表示

※チェックボックス条件は、1つも選ばないと絞り込みなし (全件) になります。

[申請されている従来技術名の検索](#)

[試行現場照会一覧](#)

[過去に選定された推奨技術・準推奨技術の一覧](#)

利用上の注意

NETISのトップページから、「活用効果調査表/活用計画書」タブを選択

2024年03月01日 「R6.4.1掲載期間終了となる技術リスト (予定)」を掲載しまし…

記者発表資料等 [一覧へ](#)

2024年03月27日 [「打設直後のセメント、コンクリートの養生技術」について…](#)

2024年02月13日 [土木鋼構造用塗膜剥離剤技術の技術公募を行います ～現場…](#)

2024年02月05日 [「建設機械の物体検知及び衝突リスク低減に関する技術」に…](#)

CO₂削減関連技術

脱炭素社会実現に向けたCO₂削減に関連する技術は [こちら](#)

NETISとは

NETISとは (紹介動画) ※音声流れます

公共工事における新技術活用システム (パンフレット)

システムメンテナンス情報

4月24日 10:00~17:00

システムメンテナンスを予定しています。

(状況により変更・延長する場合があります)

メンテナンス中はNETISへアクセスできません。ご注意ください。

ID/パスワードの申請は、WEB活用効果調査表の「作成」をクリックしてください。

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索 | 登録申請/変更・更新/事前相談 | **活用効果調査表/活用計画書** | テーマ設定型の比較表 | マッチング | 維持管理技術ページ | 震災復旧・復興支援技術ページ | NETIS活用状況データベース | マニュアル/FAQ

事後評価に必要な申請書等です。「公共工事における新技術活用システム」運用マニュアル等を確認して下さい。

WEB活用効果調査表

作成

次の様式が作成できます。

- 新技術活用計画書・実施報告書
- 活用効果調査表 (発注者用)
- 活用効果調査表 (施工者用)

活用効果調査表の作成にあたっては、「NETIS機能操作マニュアル(オンライン活用効果調査表作成)」を確認してから行ってください。

※マニュアルは適時更新されますのでご注意ください。

活用効果調査表の内容を修正する場合は、[こちら](#)

WEB活用効果調査表の「作成」を選択

試行申請

ダウンロード

次の様式がダウンロードできます。

- 様式Ⅰ-7: 試行申請書 (docxファイル)
- 様式Ⅰ-8: 試行希望調査 (xlsxファイル)
- 様式Ⅲ-5: 試行調査現場適応性回答書 (docxファイル)
- 様式Ⅲ-9: 試行調査工事等の試行調査計画原案 (docxファイル)
- 様式Ⅲ-11: 試行調査計画表 (xlsxファイル)
- 様式Ⅲ-12: 試行調査報告書 (docxファイル)
- 様式Ⅲ-13: 試行調査表 (xlsxファイル)

申請・相談窓口

各地方整備局の申請・相談窓口の一覧です。

[技術事務所等のホームページへのリンク一覧](#)

ID/パスワードによるログイン画面が表示されますが、
ここでは、ログインIDパスワードを**新規登録**のボタンをクリックしてください。

ログインID
パスワード

「ログインIDパスワードを新規登録」を選択

ログインID/パスワードをお持ちでない方はこちらから
新規登録をお願いします。

ログインIDパスワードを新規登録

設計書番号を入力すると工事情報が表示されます

新規登録フォームの全ての項目を入力してください。

ID/パスワードの申請フォーム

ログインID/PW新規登録フォーム

活用効果調査票の作成・登録に必要なログインID/パスワードを新規発行します。

以下の内容を入力の上送

■工事/業務情報

設計書番号

工事情報参照

1 受注者名

組織機関名

部署・事務所名

2 工事名/業務名

3 コリンズ/テクリス番号

調査者（施工者）氏名

調査者（施工者）メールアドレス

4 監督者氏名

監督者メールアドレス

1 施工会社等の名称を入力

【注意点】国土交通省は発注者なので間違えて入力しない。

※NETIS内に工事情報が格納されている場合、情報を参照・転記できます。

2 正確な情報を入力

【注意点】年度や文字抜けがあります。

3 コリンズ番号は10桁の数字を入力

【注意点】設計書番号ではありません。

4 担当職員と事前に打合せの上で職員氏名とメールアドレスを入力

5 新技術のNETIS番号

【注意点】情報識別記号「A、VR、VE」の入力はしない

※調査表を作成する新技術のNETIS番号を1件ずつ入力してください。入力いただいたNETIS番号毎に活用効果調査表の入力フォームが発行されます。

※NETIS番号は、情報種別記号「-A」「-VE」等々く形で入力してください。（例：KT-123456）

※ログインID/PW発行後に調査表を作成する新技術を追加することも可能です。

技術を追加する

6 技術活用提案日

5 新技術のNETIS番号（1技術目）

6 技術活用提案日

監督職員へ確認メールを送付します。

確認が取れ次第、ご指定のメールアドレスへID/PWのお知らせメールが届きます。

7 申請

1～6 登録フォームの必要事項を入力し最後に7 申請をクリック

2 活用計画書の作成について

新技術活用前に「新技術活用計画書」の登録が必要です。

【新技術活用計画書の作成手順】

NETIS
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索

登録申請/変更・更新
/事前相談

活用効果調査表
/活用計画書

テーマ設定型
の比較表

マッチング

維持管理技術
ページ

震災復旧・復興
支援技術ページ

NETIS活用状況
データベース

マニュアル
/FAQ

画面を閉じる

一時保存

印刷・プレビュー

4 登録

コリンズ/テクリス番号・連絡先等の変更

1～3の条件を入力・選択したら、
最後に4計画書をクリックして登録

※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー
・登録内容に関するお問い合わせはこちら
・システム操作方法に関するお問い合わせはこちら

技術活用提案日

登録番号(技術活

記入完了

※下記項目の記入が完了したら、口記入完了にチェックを入れて、「登録」ボタンを押してください。

比較する従来技術

組織機関名

部署・事務所名

工事名

1 活用等の型

※新技術活用システム実施要領で定められたNETIS
下さい。
新技術活用システム実施要領

登録番号(最新)

3 全て入力完了後、
「記入完了」をチェック

3 記入完了 ※下記項目の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。

作成日

受注者名

契約額(円)

工事期間

新技術施工期間

施工場所

活用理由

※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。
※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

□ 経済性

□ 工程

□ 品質・出来形

□ 安全性

□ 施工性

□ 環境

□ その他 (

□ その他 (

コメント欄 (確認者のコメント (赤)、申請者のコメント (青))

コメントを入力してください

ファイルを選択 選択されていません

- ・120分でタイムアウトします。入力情報が消失してしまいますので、ご注意ください。
- ・一時保存した内容はシステムに保管され、再度ログインすると復旧されます。

【新技術活用計画書の作成手順】

① 「活用等の型」をリストから選択してください。

活用等の型は、「施工者選定型（契約後提案）」「施工者選定型（総合評価技術提案）」「発注者指定型」の場合がほとんどです。間違いのないように注意してください。

活用の型は赤枠が主	
施工者選定型（契約後提案）	間違いやすいので注意！！
施工者選定型（総合評価技術提案）	
発注者指定型	
発注者指定型（選択肢提示型）	
試行申請型(発注者指定)	
試行申請型(契約後提案)	
試行申請型	
フィールド提供型	
テーマ設定型(技術公募)	

② 「新技術活用計画書」のタブをクリックし、全ての項目を記入してください。

「活用理由」

- ・活用した理由をチェックし、コメントを記入します。
- ・6項目のうち、必ず1項目以上の記入が必須となっています。
- ・チェックした項目は、コメント欄を必ず記入してください。
- ・NETIS申請情報の「従来技術との比較」を確認し、向上するとされている項目については、必ずチェックし、コメントを記入してください。
- ・従来技術と比べて、向上する活用理由を記入してください。

③ 全ての項目を記入したら、記入完了に☑を入れてください。

④ 登録ボタンをクリックしてください。

ID・パスワード
新規登録フォームより
自動転記

② 「新技術活用計画書」 の全ての項目を入力

※コメント欄について
調査表等の右側にあるコメント欄は、不備を有する調査表に対し、修正依頼を実施する際に、確認者が修正内容等を記入する為に使用します。

修正等がない場合は、記入の必要はありません。

③ 活用効果調査表の作成について

活用効果調査表の作成は、【施工者】 【発注者】 それぞれ作成が必要です。（VE技術は不要）

【活用効果調査表の作成手順】



新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表（発注者用） 活用効果調査表（施工者用）

記入要領

1. 全ての調査項目について調査を行って下さい。
ただし、記入者が評価に関係ないと判断した調査項目があれば「当該技術に関連しない項目である」にチェックして下さい。
その場合は、当該調査項目の評価は必要ありません。また、コメント欄にその理由を必ず記入して下さい。

2. 調査項目毎に評価点をチェックして下さい（チェックの目安は下表の通り）。

大幅に劣る	劣る	同等	優れる	大幅に優れる
1	2	3	4	5

【ポイント】

活用した新技術が、従来技術に比べて「優れる」か「同等」か「劣る」かを判断してから、どの程度優れているのか、どの程度劣っているのかを上表を目安に判断していただくことで、チェックしやすくなります。

3. 調査項目の追加が必要な場合はその他（自由設定）欄に記入して下さい。
4. 調査項目毎に「優れていた点」「劣っていた点」をチェックして下さい（複数チェックすることも可能です）。
チェックを入れた場合はその補足説明をコメント欄に記入して下さい。また、チェックを入れなかった場合についても、その理由をコメント欄に記入して下さい。
5. コメント欄には、**効果調査（5段階評価チェック）の理由を必ず記入して下さい。**
また、当該技術を活用及び活用検討する上での**留意事項等**を記入して下さい。
記入内容は、効果調査の理由や評価の視点でチェックした内容と必ず整合を図って下さい。
必要に応じて定量的なコメントをお願いします。

4 記入完了 ※「活用効果調査表（施工者用）」の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。

4 入力完了後、
「記入完了」をチェック

会社名(所属)

記入者氏名

連絡先 (TEL)

コメント欄（確認者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

1 経済性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3
○4	○5	

☒ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

優れていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☐ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が減少したため
- ☐ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

① 6項目について、調査

コメントを入力してください

評価項目は、経済性、工程、品質・出来形、安全性、施工性、環境の6項目あります。

2

総合的所見

NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうでしたか

優れていた所 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

劣っていた所 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

留意する所 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

☒ 適切であった
 ☐ 適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

☒ 今後も是非活用したい
 ☐ 活用を検討したい
 ☐ 場合によっては活用することもある
☐ 技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

② 総合的所見を記入

【活用効果調査表の作成手順】

- ① 「活用効果調査表」のタブをクリックし、6項目全ての項目を評価してください。
 - ・ 定性的5段階評価をお願いします。
 - ・ コメントは必ず記入してください。「当該技術に関連しない項目である」場合もその理由をコメントしてください。
- ② 総合的所見を全て記入してください。
- ③ 新技術の活用状況が写真を添付してください。
(施工者のみ)
 - ・ 施工状況、使用材料、計測状況、完了等
- ④ 全ての項目を記入したら、記入完了に☑を入れてください。
- ⑤ 登録ボタンをクリックしてください。

3

施工状況等の写真 ※写真ファイルには、サイズ300×200程度のGIF形式またはJPEG形式の画像ファイルを指定してください。

写真1

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

 選択されていません

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

写真2

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

 選択されていません

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

写真3

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

 選択されていません

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

③ 写真を添付
(施工者のみ)

③ 活用効果調査表の作成の留意事項

留意事項 1

☑ 記入完了 ※「活用効果調査表（施工者用）」の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。

会社名(所属)
記入者氏名
連絡先 (TEL)

② 該当する項目をチェック
該当項目がなければチェックは不要です。

① 比較する従来技術と比べて判断し、優劣などの評価を必ず、クリックして選択

経済性

① 効果調査

従来技術より劣る 同等 従来技術より優れる
○ 1 ○ 2 ○ 3 ◎ 4 ○ 5

○ 当該技術に関連しない項目である

③ コメント 全角1000文字以内。

(例)
ベースマシンがバックホウタイプで小型であることから、機械経費・人件費が安価となり、仮設足場材(敷鉄板)に要する費用が減少し、施工日数が短縮できたという理由で非常に優れている。

③ コメントは、①【効果調査】②【該当する項目チェック】との整合性を取ってください。
【優れていた点】あるいは【劣っていた点】の理由を必ず記入。
【当該技術に関連しない項目】とした場合はその理由を必ず記入。

②

優れていた点

☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
☒ 作業人員が減少したため
☐ 仮設費が減少したため
☐ 施工日数が短縮したため
☐ 施工量が想定数量より多かったため
☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
☐ 作業人員が増加したため
☐ 仮設費が増加したため
☐ 施工日数が延長したため
☐ 施工量が想定数量より少なかったため
☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

コメント欄 (確認者のコメント (赤)、申請者のコメント (青))

コメントを入力してください

監督職員とテキストでやりとりする場合に使用

評価項目のチェックポイント

- ① 効果調査 (優れる、同等、劣る、当該技術に関連しない項目)
- ② 優れていた点、劣っていた点
- ③ ①②とした理由のコメント

【活用効果調査表】の総合的所見との記載
【活用計画書】の活用理由の記載

記入漏れや評価に矛盾がないよう発注者は必ずチェックしてください。
また、施工者の評価と発注者の評価が大きく異なることがないように評価に当たっては施工者と発注者の間で十分調整を図ってください。

整合は取れているか？

留意事項 2

活用効果調査表の6項目の評価は、下記を参考に作成してください。

経済性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○ 1	○ 2	○ 3
		◎ 4
		● 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

従来技術より軽量の為、1日当たりの施工量が増加することにより、機械経費及び人件費の削減が図れ、施工日数も短縮できたため、経済性は優れている。

優れていた点

- ☒ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☒ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が減少したため
- ☒ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

※コメントは必ず記入してください。

【コメント】
・効果調査の理由を必ず記入してください。効果調査の理由や評価の視点との整合を図ってください。

工程

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○ 1	○ 2	○ 3
		● 4
		○ 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

施工性の向上により敷設に要する日数が従来技術よりも短縮したため、工程は優れている。

優れていた点

- ☒ 施工日数が短縮したため
- ☐ 工程計画が組みやすかったため
- ☐ 予定工程どおりに進捗したため
- ☒ 施工性が向上したため
- ☐ 仮設が減少したため
- ☐ 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 工程計画が組みづらかったため
- ☐ 予定工程どおりに進捗しなかったため
- ☐ 施工性が劣るため
- ☐ 仮設が増加したため
- ☐ 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

【効果調査】
・「5段階」で評価してください。当該技術が評価に関連しない場合は「当該技術に関連しない項目である」にチェックしてください。

・「優れていた点」「劣っていた点」にチェックしてください。

留意事項 3

活用計画書の活用理由を記載した評価項目は、必ず調査表の効果調査を 5 段階で評価を行ってください。

【活用計画書】

活用理由 ※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。
※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

☒ 経済性

施工日数が短縮し、作業人員が減少するため経済性は優れている。

☐ 工程

【活用効果調査表】

経済性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
☐ 1	☐ 2	☐ 3
☐ 4	☐ 5	

☒ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

当該技術において経済性は関連しない。

優れていた点

- ☐ 機械経費・製品単価が減少したため
- ☐ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が減少したため
- ☐ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

5 段階評価が行われておらず、「当該技術に関連しない項目である」にチェックされています。

5 段階評価を行い、コメント記入してください。

留意事項 4

不整合の例

効果調査は「5」（優れる）にチェックされているが、調査の視点で「劣っていた点」の項目にチェックされている。コメントは「劣っていた」との理由が記載されていることから、不整合である。

【活用効果調査表】

経済性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
☐ 1	☐ 2	☐ 3
☐ 4	☒ 5	

☐ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

製品単価が効果であるため経済性は劣っていた。

「5（優れる）」にチェック

優れていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☐ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が減少したため
- ☐ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

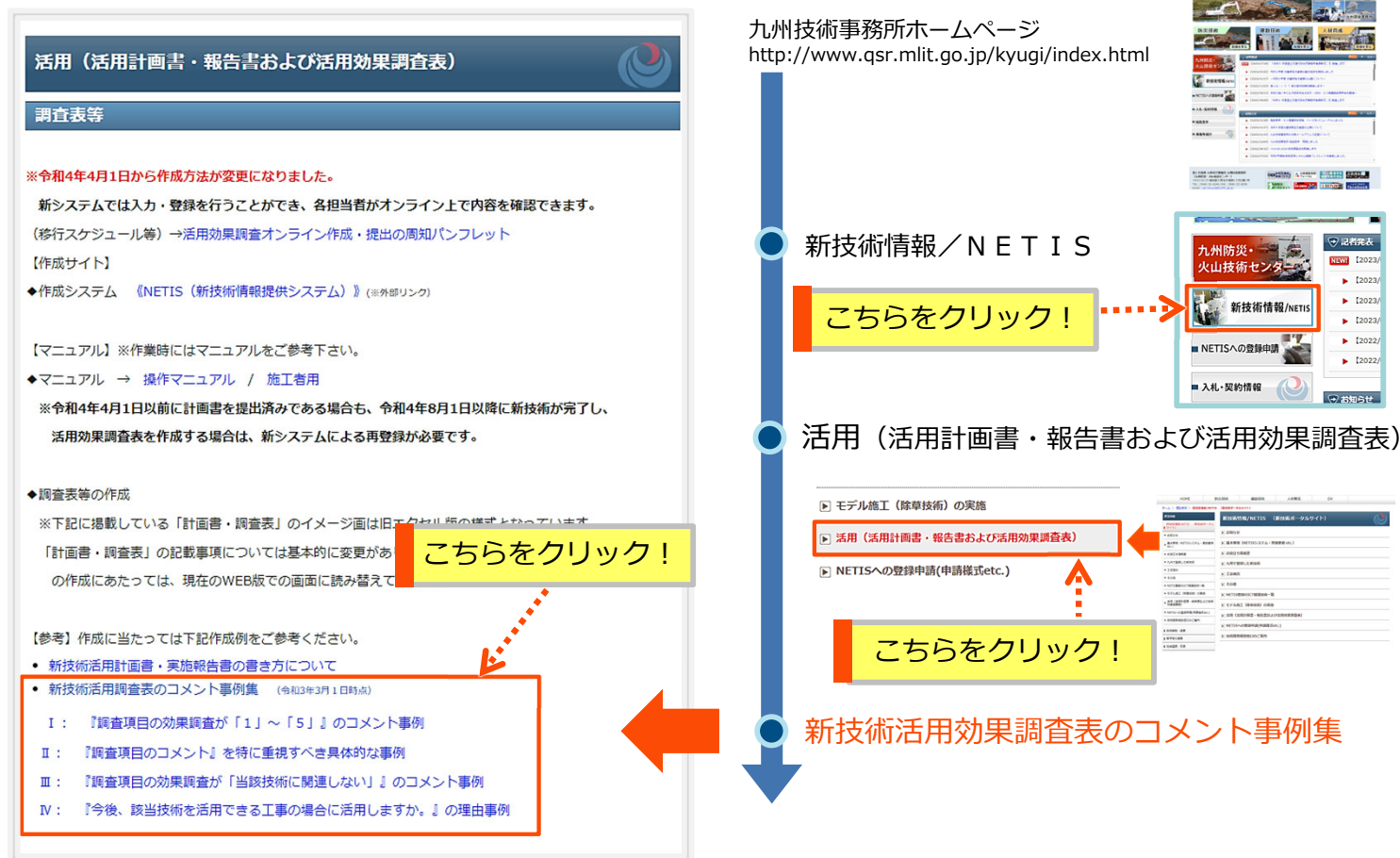
劣っていた点

- ☒ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

不整合

③ 活用効果調査表の作成のコメント事例集

コメント事例集を九州技術事務所ホームページに掲載しています。



『調査項目の効果調査が「当該技術に関連しない」』のコメント事例

効果調査が「当該技術に関連しない評価項目」の場合

経済性 【コメント】

材料費が高価で鉄筋への装着労務が必要となるなど直接的な費用は増加しているが、仕上り後の補修費の有無に対する比較は困難である。

今回、施工対象面積が小さく、従来技術との比較において対象としない。

工程 【コメント】

今回、施工対象面積が小さく、従来技術との比較において対象としない。

工程は調査の視点に該当がない。

工程は、システムの性質的に関係しない。

工程に影響する技術ではないため評価できない。

品質・出来形 【コメント】

品質・出来形は該当しない評価項目である。

品質・出来形は調査の視点に該当がない。

品質・出来形は、コンクリート構造物の弱点となりやすい打ち継ぎ目の強度低下を防ぐものであるが、今回の施工での確認はできない。

今回、新技術は、現況トンネルの形状把握で用いた為、品質・出来形に関連しない評価項目である。

機材の形態上、当該技術に関連しない評価項目である。

③ 活用効果調査表の作成にあたっての留意点

活用効果調査にあたっては、NETIS申請情報「活用の効果」の内容を確認し、技術特性を十分理解し、適切な評価となるよう留意してください。

活用効果調査表の評価は、NETIS記載の従来技術と比較してください。（P28参照）

■調査表記載にあたっての主な留意点

経済性：新技術の導入コストだけでなく、工期短縮などに伴う、人件費、管理費、仮設費用などのコスト含めて総合的な観点から評価をお願いします。

工 程：技術導入による施工期間での評価をお願いします。

品質・出来形：施工性の視点（現場での施工や作業が容易など）での評価ではなく、目的物の品質や出来形が向上する視点（耐久性向上・現場での管理項目など）での評価としてください。

安全性：今回の現場施工中による効果での評価をお願いします。
施工後の新技術の導入効果は評価しないようお願いします。

当該技術に関連しない項目である：

技術特性により評価項目が適切でない場合に限り選択してください。

従来技術も影響を与えないあるいは変化がない場合の評価は、「同等（3点）」の評価となります。

経済性・工程は、当該技術に関連しない項目とせず、原則5段階評価を行ってください。

③ 活用効果調査にあたってのアドバイス

活用効果調査表等は、発注者と施工者がNETISシステム上で作成します。

■新技術活用計画書

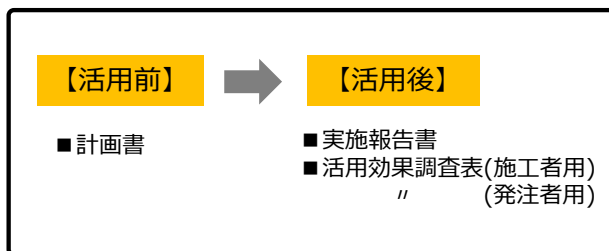
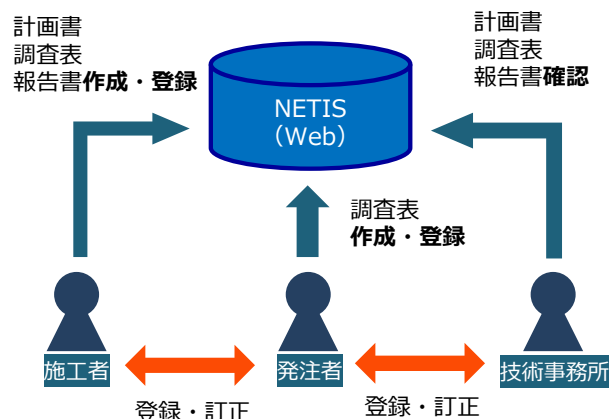
「計画書」は、活用する全ての新技術において、作成が必要です。

新技術活用決定後速やかに作成し、必ず**活用前**までに登録してください。

■実施報告書・活用効果調査表（以下、調査表）

「実施報告書」「調査表」は新技術を**活用後**、**速やかに作成し登録してください。**

「-VE」技術は、「実施報告書」「調査表」の**作成が不要**です。



■活用が中止になった場合は、システムから削除の上、九州技術事務所に報告してください！

E-mail : qsr-kyugi-netis@ki.mlit.go.jp

④ 実施報告書の作成について

「-A」「-VR」技術は新技術活用後、実施報告書及び活用効果調査表の作成・登録が必要です。

(VE技術は不要)

【実施報告書の作成手順】

2

□ 記入完了 ※下記項目の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。

施工概要 内容 全角1000文字以内。

工事の施工内容を記入
例) ○○川に架かる橋梁の下部工事
△△工 1式
□□工 1基

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

対象数量 全角127文字以内。 ※新技術を活用する数量を記入して下さい。

新技術の対象数量を記入してください。
例) 掘削工2,000m³
単位は、NETIS 掲載情報「活用効果の根拠」に合わせてください。

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

新技術使用箇所 全角127文字以内。

例) ふとんかごの場合、「施工済盛土法面」、「○○川右岸崩壊箇所」等

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

施工(活用)概要資料 ※新技術の活用内容が把握できる図面や写真等を添付。(活用後の情報で構いません。)

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルを選択 選択されていません

※ファイルは30MBまでのものとしてください。

現場施工条件 各全角1000文字以内。

●現場条件

例) 回収部分のN値は、2～1.3程度。川裏側に一部砕石があり、先行除去作業

●周辺状況(病院、学校、鉄塔の有無等)

例) 改良部より川裏側(L=6.0m付近)に電力会社の鉄塔あり

●自然環境(騒音、振動、水質等)

例) 今回施工した改良部では、地下水、湧水への影響はない。

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

障害 施工上で重大な障害や問題が生じましたか。

○無 ○有 チェックを外す

障害の内容 全角127文字以内。

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

作業環境 ○陸上作業 ○水上作業 ○地下作業 ○水中作業 ○高所作業 チェックを外す

② 入力完了後、「記入完了」をチェック

1

① 「実施報告書」の全ての項目を入力

【新技術活用計画書の作成手順】

- ① 「実施報告書」のタブをクリックし、全ての項目を記入してください。
- ② 全ての項目を記入したら、記入完了に☑を入れてください。